

令和7年度 大阪市立港南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 大阪市立港南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	122	53	44	4.6	7.3	学校	482
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	117	64.0	50.7	52.4	44.8	54.1	4.2	3.8	9.5	7.4	5.9
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	48.2	54.4	6.1	5.8	11.1	8.6	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	48.1	53.2	6.8	6.5	12.1	10.0	7.4
2年	学校	143	65.9	45.2	58.7	42.9	58.2	5.0	4.2	7.7	3.2	5.0
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	114	58.9	61.4	60.5	67.3	65.6	11.3	2.9	7.3	3.2	4.8
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はA問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	110	111.1	105.0	157.4	103.3
10月15日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	138	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	28.63	29.53	41.00	52.72	81.89		8.35	198.85	20.64	41.67
	大阪市	28.65	26.88	43.47	51.81	80.13		8.06	195.07	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82		8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	24.49	24.38	45.95	49.00	56.19		8.74	169.81	13.56	52.05
	大阪市	23.13	22.68	46.31	46.59	53.05		9.03	166.78	12.19	48.11
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 大阪市立港南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学生チャレンジテスト(1年生)・大阪市版チャレンジテストplus

<国語>

◆成果

・我が国の言語文化に関する事項において大阪府平均を上回った。中でも特に、古文の問題では5問中3問大阪府平均を上回った。

◆課題

・漢字の小テストを毎回の授業で行っているが、漢字の問題では6問中5問が大阪府平均を下回った。特に書く力に課題がみられる。一時的な知識になっているので、定着するように課題を提示したり、方法を改善したい。資料を読んで答える問題では、抜き出し問題で得点率が低いので、新聞記事を用いた問題演習を増やす必要がある。また、無回答率が高いため、選択問題は特に無回答率が0%になるように諦めず問題に取り組む力をつけさせたい。

<社会>

◆成果

・校内平均が市平均より3.1ポイント上回ることができた。正答率分布は、70%~90%の生徒が市平均を上回っている。上位層の学習の定着具合が校内平均UPにつながっていると考えられる。

・基礎に関して、市平均より4.3ポイント上回り、基礎的な知識については定着していると考えられる。1年を通じ、一問一答の課題、小テストを繰り返したことがこの結果につながったと思う。

・授業でも繰り返し取り組んだ問題に関しての正答率が特に高かった(日本の領土、領域について・年代の表し方について・奈良時代の土地制度について)。

・歴史的分野に関しては、古代~古墳時代までは特に正答率が高く、日々の学習が定着していると感じた。

・地理的分野に関しては、世界の姿、日本の姿、世界各地の人々の生活と環境の正答率が高く、反復学習の成果があらわれた。

◆課題

・正答率分布で、30%~40%の生徒が市平均より若干多かった。今後この層の生徒がプラス5~10ポイントとれるようになるかが重要であるとする。そのため、日々の授業や提出物など丁寧に対応していこうと思う。

・活用の正答率が市平均より0.7ポイント下回った。また、記述形式の正答率も0.1ポイント下回った。これからは、授業の中で資料の読み取りの時間を増やし、自分の言葉で表現する力をつけていく必要を感じた。

・歴史的分野に関しては、飛鳥時代の正答率が市平均より下回った。飛鳥時代に関しては再確認が必要である。

・地理的分野に関しては、アジア州の正答率が低く、定着していないことが分かった。アジア州に関しては、再度授業で時間を取ろうと思う。

<数学>

◆成果

・平均点は大阪府と比較して、3.8ポイント上回った。学習の観点においては知識・技能が3.0ポイント、思考・判断・表現において0.8ポイント上回った。1年生では基本的な計算の技能をスキルプリントで定着させた成果かと思われる。今後も継続させたい。

◆課題

・数学科において、思考・判断・表現の観点において大阪府の平均を上回ることができたが、ギリギリの値であった。やはり、本校の生徒は記述式の解答において苦手意識がみられる。問題演習を通して、思考力・判断力・表現力を育成できるような効果的な教材作成や発問を実施していく必要がある。

<理科>

◆成果

・教科全体としての点数も大阪市の平均と比べて、4.3ポイント上回った。細かく基礎と活用に分類しても、基礎:4.7ポイント、活用:2.6ポイント市の平均よりも上回った。

◆課題

・領域別で分析した場合、粒子の領域は0.5ポイント市の平均を下回った。また解答形式においても記述の形式のみ市の平均を下回った。基礎的な知識は身につけてきたので、来年度は知識等を自分なりにまとめ表現する力を日々の授業での振りかえり作業などを通じて養っていききたい。

<英語>

◆全体

・聞くことに関する領域では、大阪府平均より0.6ポイントプラスとなった。

・読むことに関する領域では、大阪府平均と同じポイントとなった。

・書くことに関する領域では、大阪府平均より0.2ポイントマイナスとなった。

◆成果

・授業では、音読活動を活発に行ったことが、音と文字の一致につながったと思われる。

・また、ワークシートを用いた読解問題にも取り組んでいた。英文の内容についても、授業内でくわしくことばで表現する指導を多く行った。英問英答や、英語での要約にも取り組んだ。今年度の出題では、比較的長い英文の出題となったがおおむね意図をとりとることができていた。

◆課題

・書くことに関する領域では、小学校から学んでいたフレーズであっても平均を下回る結果となった。音声による発表の活動が多かったが、文の活用なども含めて書くことにも時間をかける必要がある。

令和7年度 大阪市立港南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学生チャレンジテスト(2年生)

<国語>

◆成果

- ・50点以下が21人。
- ・[思考・判断・表現]の項目の「書くこと」、「記述式」の得点率が大阪府の平均と比べて5ポイント以上高い。
- ・漢字書き取り問題の無回答率が低く、正答率が高い。

◆課題

- ・複数回答必要な選択問題の正答率が低い。特に、文法の応用問題が定着していない。
- ・書き取りに比べ、漢字の読み取り問題の無回答率が平均より高い。読み問題は課題等で取り組むことが少なかったため、まんべんなく触れていきたい。

<社会>

◆成果

・地理的分野での雨温図の見分けに関しては、ただ暗記するだけではなく地域による気候の違いとその仕組みを理解して判断できるように指導し、定期テストでも雨温図を記号で選ぶ問題は70%程度の正答率があった。今回のチャレンジテストでも、記述式問題との完答問題でありながら、正答率が49%(府内平均37.9%)あったのは練習の成果であると思う。

・定期テストでも記述問題の無解答率を30%以下という目標を立て、「文章を書くことをあきらめない」ように指導している。チャレンジテストでの記述問題2問において無解答率は2.1%(府内無解答率5.9%)と19.6%(府内無解答率33.5%)であり、いずれも目標を達成できた。

・授業で学習した「二毛作」や「出島」、などの短答的な記述問題の正答率は府内平均と比べて15%~20%高く、基礎的な語句が定着していると感じた。

◆課題

・チャレンジテストの過去の問題を解いた時も「資料の読み取り」が非常に苦手な子が多く感じた。グラフを見て割合を計算したり、複数の資料を読み取って文章を選ぶという問題に我慢強く取り組むことができない生徒が多く、苦手意識をなくすために普段の授業やテスト等でも数をこなし慣れさせる必要があると感じた。

・上記の課題にもつながるが、チャレンジテスト前に2年生の学習内容の復習には多くの時間を取ったが、「チャレンジテスト独自の対策」をする時間が少なかったと思う。例年の出題範囲や傾向をもう少し分析し、過去の問題も時間をかけて解かせていけばもう少し結果の向上が見られたと思うので、今後の指導に生かしたい。

<数学>

◆成果

- ・対府平均は+3.7Pと校内平均が府平均を上回ることができた。標準偏差も-3.9Pと個々のデータの散らばりも小さく抑えられたことがわかる。
- ・全ての設問に対して、無回答率も低くなっており、生徒一人ひとりが団体戦を意識して取り組めたことがうかがえる。
- ・これまでの取り組みとしては過去問題を10年分授業で触れたのと、冬季休業中の課題にし、1人1台端末を利用して解説をアップロードし取り組ませた。特に序盤の設問の基礎問題に関しては、繰り返し解かせることで、傾向を掴むこともできる良い対策となったといえる。

◆課題

・チャレンジテストに関しては、過去問題からある程度の傾向は把握でき、それは基礎、応用問わずであるが、応用問題(主に思考力・判断力の観点)に時間をかけることがなかなかできなかった。この部分を改善すれば更なるポイントアップも狙えると思われる。

<理科>

◆成果

・府平均より4点程下回った(府平均46.7点に対して42.9点)。母集団が異なるものの経年変化をみると、1年時の令和6年度チャレンジテストプラス1年理科では市平均より8点下回っていたが(市平均55.6点に対して47.8点)平均点に4点程近づいた。

◆課題

- ・昨年度に続いて宿題の取り組み方に工夫が必要である。
- ・本年度はデジタルドリルの宿題をテスト前に課したが、検討が必要である。
- ・理科の実験器具を整備・活用して思考・判断力の向上をはかる必要がある。

<英語>

◆成果

・書くことの項目について府平均を上回ることができた。本校でも書くことにおいて苦手意識を持っている生徒は多いが、授業の中で自分の考えを英語で考え、まとめる。最後のまとめで書くことにつながれたことが成果だと言える。

◆課題

・今年度においては3学年とも府平均を上回ることができた。選択式問題においては会話の内容や文法の基礎問題が多いので、対策として日々の授業の中でペアでの会話練習や基礎の徹底を行っていききたい。

令和7年度 大阪市立港南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学生チャレンジテスト(3年生)

<国語>

◆成果

- ・行書や文法を直前に確認し、特に行書の得点率は府平均を大きく上回った。
- ・普段から、解答用紙の空欄を作らないよう指導し、無回答率は低かった。また、19点以下が0人、95点以上が4人と2年生の頃に比べて得点できる生徒も増えた。

◆課題

- ・グラフの読み取りや活用問題を1年の頃から取り組んできたが、3年生では行事や実力テスト対策などの時間の確保の都合上、1、2年の頃に比べチャレンジテスト対策の時間が設けられなかった。

- ・解答スピードが遅く時間配分に課題が残る。また、冊子型のテストに慣れていないので、過去問は冊子形式にしたほうが良かったと思われる。

<社会>

◆成果

- ・無回答率は府の平均点を下回った。

◆課題

- ・知識の未定着 語句・場所→語句を問われる問題で正答率が伸びなかった。
- ・時代、地域ごとの特徴の整理→表から地域、国、都道府県を選ぶ問題への対策
- ・資料を読み取る力

<数学>

◆成果

- ・入試の小問集合の練習をしたこともあり、四則計算、連立方程式、根号を含んだ展開といった計算が大阪府より、正答率を上回ることができ、数と式の領域においても大阪府の平均を上回った。基礎的な知識・技能を問う問題ができるようになり、定着してきたと考えられる。

◆課題

- ・図形・関数・データの活用の領域において大阪府の平均を下回った。問題文から問題を解くにあたっての条件の読み取りや活用する問題の練習が必要である。前年度よりも関数の領域においては大阪府平均には近づいたがより一層練習が必要である。

<理科>

◆全体

- ・大阪府平均に対して、3.3ポイント下回り、中央値も3.5ポイントと大きく下回った。度数分布を確認する限りでは、上位層の割合がやや低く、中間層の割合が高いものの下位層の割合もまた比較的高い。それぞれの生徒の実情に応じた学習展開が必要であることがうかがえる。

◆分野

- ・単元別に見ると、全体的に大阪府平均を下回っているが、多くは1点以下の差であり、「粒子」分野に限って2点下回っている。平均を下回っている問いは、計算を含む応用的な問いであることが多く、問われていることがわからないままに解答しているであろうと思われ、読解力の向上、入試問題など一問一答以外の問いの解答への慣れが必要である。基礎・基本は昨年度よりも定着してきているため、問題解答の練習をする機会をより多く設けていくことが必要である。

◆解答形式

- ・無解答率が、ほとんどの問いで府平均を下回っており、きちんと埋めようとする前向きな姿勢が見られる。この姿勢を生かすためにも、個人のもつ実力が存分に発揮できるよう、練習への慣れをつくっていく。

<英語>

◆成果

- ・大阪府の平均を超えることができた。文法と長文を分けて授業を行ったのが効果的だった。

◆課題

- ・過去問の解説の時間をより多くとることができていたら良かった。

令和7年度 大阪市立港南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査

<国語>

本校の国語平均正答率53%は大阪府平均正答率より1%上回っているものの、全国より1.3%下回った。大阪府、全国の値と比較しても中間層が多く、低得点者は少ないものの、高得点者も少ない。無解答率は選択問題は低いものの、記述問題は解答できなかつたり、正答率が下がっていたりすることから、自分の考えを書くという問題に課題があると思われる。また、漢字問題の正答率も全国・大阪府と比べて低い。入学当初から誤字脱字が例年の生徒と比べ顕著であり、漢字の小テストを実施しているが、普段の生活で「書く」という作業が少ないと考えられる。活用問題やNIEを1年生から取り組んでいた成果か、読解問題は比較的得点できている。

<数学>

本校の数学平均正答数は大阪府平均正答数より0.3問、全国より0.5問下回った。大阪府、全国の値と比較しても学力差の散らばりが少ないが、中央値が大阪府平均と比較して低いため全体の学力の向上が必要である。領域に関して、2年チャレンジテストの結果では関数の領域が大阪府の平均と比較したときに一番低かったが、この結果を踏まえて授業を行った結果、一番領域の中で大阪府平均を上回ったのが関数の領域になった。問題の全国平均と正答率で大きな差が出た問題は、1年生の履修範囲の素数を選択する、相対度数について答える基礎知識を聞く問題であり、知識定着や家庭での復習があまり行えていないのが課題である。また、連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明が最も全国平均の正答率を上回った問題であり、標準・応用的な問題でも授業での取り扱いの多い問題はとれていることから、多くの問題に取り組ませて問題に柔軟に取り組める力を育てていきたい。

<理科>

①平均正答数とIRTバンド

平均正答数は、全国と比較すると0.2ポイント下回ったが、府内では同じポイントとなった。

IRTバンドは、

「5」: 全国より3.7ポイント下回り、府よりも1.8ポイント下回った。

「4」: 全国より0.2ポイント上回り、府よりも2.7ポイント上回った。

「3」: 全国よりも0.2ポイント下回ったが、府よりも2.4ポイント上回った。

「2」: 全国よりも1.4ポイント上回ったが、府よりも2.4ポイント下回った。

「1」: 全国よりも2.4ポイント上回り、府よりも0.2ポイント上回った。

【課題】

総じて高い実力を示す生徒数が多くなく、平均的な学力を示している。また、学力の低い生徒の割合も全国と比較して多いため、下位層の底上げと上位層への引き上げが必要であり、積極的に応用問題に取り組ませること、および低学力の生徒には基礎の充実をはかる必要がある。

②各領域

「粒子」: 各問において、全国平均または府平均のいずれかを上回った。

「生命」: 各問において、全国平均および府平均を下回った。

「エネルギー」: 各問において、全国平均および府平均を下回った。

「地球」: 全国平均は2.6ポイント下回ったが、府平均は0.1ポイント上回った。

【課題】

「生命」「エネルギー」を柱とする領域が、全国・府ともに平均を下回る結果となり、覚えることの多い【人体のしくみ】や【植物のつくり】については、一問一答を繰り返すなどして基礎を定着させることを目指し、また電気分野における計算練習をして問題慣れをさせる必要がある。

《総評》

全体として、無解答率が全国と比較して圧倒的に低く、ほとんどの問いで無解答が0%である。積極的に解答しようとする姿勢はきちんと身につけていると感じた。